

実績概要報告書

区会活動支援アプリの実証実験

NPO法人みどりーむプロジェクト

世界の
あしたが見えるまち。
TSUKUBA

背景・目的

従来負担の大きい、回覧広報内容の概要作成や、アンケートデータの集計、問い合わせ分析にAIを活用。区長への大幅な負担を軽減し、後継者不足に悩む区会運営の解決を図ります。本プロジェクトを通じて、住民参画・地域情報の共有・行政協働の新しい形を模索し、「スマート自治会」モデルの社会実装可能性を検証する

実施内容

- ・AIを活用した回覧板の多言語対応化
- ・アンケート機能検証
- ・回覧板閲覧機能検証
- ・会計情報作成・閲覧
- ・防犯・防災時におけるアプリ機能の実装と、行政ヒアリングを実施
- ・カレンダー機能の実装

実施期間

2025年11月1日～2026年1月31日

場所

各区会内議論、みどりの地区集会場にて、3回説明会と、要望確認を実施

市の支援内容

- ・つくば市から区長へのコンタクトが必要なケースの取り纏め
- ・災害時における区会への期待のディスカッションを実施

実験結果

- ・回覧板の多言語化については、ニーズもあるが必須機能ではなかった。
- ・区会におけるアンケート機能のニーズは大きくないものの、今後の期待となった。理由としては、検証している区会では集会場があり、対面でのコミュニケーションができるため。
- ・回覧板閲覧については、概ね期待通りとなった。
- ・会計報告については、大きな機能追加を施した。会計作成は、会計権限を必須とし、会計権限を付与されたユーザーのみ、データの操作ができるように修正
- ・当初は災害時における共助の仕組みを実装したが、行政からのヒアリングでは、要救助者は行政で把握・管理をしており、アプリによる管理は、責任所在の観点から無用となった。
- ・カレンダー機能の充実の要望をいただき、追加開発をおこなった。具体的には年間のゴミカレンダー実装の依頼と、個人的なスケジュール、及び集会場の予約管理機能を実装した。

社会実装に向けた課題等

本アプリは従来のコミュニケーションツールにはない、ガバナンスを主軸とした設計思想を用いて開発を進めている。しかしながら検証中に権限の強い管理者のIDの使い回しをしているケースがあった。会員管理、支払い管理を行う必要があるため、管理者と会計権限を分離したが、IDの使い回しによる成り済ましなどの対応が必要になると判断した。またこの度の検証においては13区会にて実施。継続利用要望を頂いたのと、追加参加区会が現在もあり、ご期待を感じると共に、今後展開方法が課題となった。

市からのコメント（担当部署）

区会活動のデジタル化を進めることで、担い手不足の解消や運営の効率化、ひいては区会加入率の増加につながることから、このアプリが広く普及することを期待します。